

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102645		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホームコスモス1及2(コスモス1)		
所在地	長崎県長崎市京泊3丁目10番5号		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にスーパー、郵便局、銀行があり、交通の便もよくいつでも外出支援ができる環境にある。また、母体が診療所の為、いつでも往診が可能。建物の1階にはデイサービスが併設しており、いつでも利用できるような環境整備ができています。ただ、建物の周りに自然が少ないので、外出の機会を増やすことで、自然に触れる機会を作りにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市本町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年11月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は町の中心部にあり商業施設や金融機関が隣接しており利用者の社会性の継続に役立つとともに、事業所内からは海や山等の自然が眺められ利用者の癒しになっている。「安心とあなたらしい暮らしを真心でお手伝い」という理念は職員一人ひとりに浸透している。たとえば利用者の特徴をよく理解し、笑顔でゆったりした言葉掛けを行う支援や利用者の希望を叶えるためにはどうしたらいいのかを職員間でよく話し合い、速い対応に心掛けていることなどから確認できる。職員の一貫した支援姿勢は、職員と利用者や家族との間に強い信頼関係を築いている。事業所は身体拘束をしないケアを実践しており、ベッド柵をせず布団を使用する工夫も見られる。母体の診療所の医療支援や同法人施設との災害時連携等、安心して生活できる体制が整えられ、まさに理念を基に利用者の暮らしを支えることを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を職員で話し合い、作り上げた。ミーティングで理念について振り返り、共通認識し、意識統一を図ることが出来ている。日々実践に向けて取り組んでいる。	理念は平成16年に職員全員に公募し、全員で選択し決定している。職員がゆとりを持って対応することが利用者の「安心」につながり、利用者の希望を今支援することが「あなたらしい暮らし」につながるとして、職員は実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校の行事参加や、中学校、高校の職場体験の受け入れを行っている。	小学校に認知症の説明会に出向いたり、自治会の見学を受け入れている。商店で知り合いになった方とは挨拶を交わしている。法人の夏祭りのチラシを配布しているが、参加がなかったため、今後は町内清掃に参加するよう検討中である。	地域へ出かけてのつきあいはあるものの、事業所が主体となった交流ができるよう、更なる企画検討、実践が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、高校の職場体験の受け入れを行っており、実習の中で実際に認知症の方の理解や支援を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、議事録を回覧している。また、近隣の警察署や消防署へ会議への参加を働きかけている。	前回の外部評価で期待事項であったが平成24年度は2ヶ月に一度、規定のメンバーで開催している。報告以外にメンバーから年間の会議予定を事業計画に組み入れる提案や避難経路を利用者と一緒に確認することを勧められ、実施している。回を増すごとに意見が出やすくなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な場合は窓口直接向き、担当の方と協議しているが、ケアサービスについての協力関係を築くまでは至っていない。	年に1、2回介護相談員の受け入れを行っており、得た情報は支援に反映している。行政とは施設長が対応しており、窓口に出向いたり電話で制度上の不明点を尋ねている。また、市主催の研修会には職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止の内部研修の中で、身体拘束についても触れ、身体拘束廃止に向け、意識向上を図っている。	法人の内部研修で毎年テーマとなっているが、今年度はまだ実施していない。ミーティングでは疑わしい事例を検討し、ベッド柵を付けず別の方法で安全策を図るなど身体拘束をしないケアに努めている。言葉の拘束も具体的に指導し利用者の身になって考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、虐待についての勉強会があり、虐待防止に努めている。		

グループホームコスモス1及2(コスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用するような入居者の方はいないが、権利擁護の制度については職員にアナウンスを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結などの際は、懇切丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時等に意見や要望が無い か、話せる機会を作っており、意見や要望があれば、すぐに改善するように、スタッフで取り組んでいる。	家族の面会時や県外の方には電話などで利用者の近況を伝え、希望などを聴取している。聞き取った要望は記録し、検討し取り組んでいる。月1回、便りを発送する際にも利用者の様子を記して知らせしている。敬老会や秋祭りには多くの家族が参加し、利用者とともに楽しい時間を過ごせるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人的に意見を聞くように努めている。職員の意見はほぼ全面的に反映させている。	月1回のミーティングでは職員から様々な要望が出て、手すりの設置や新たな掃除用具の導入、食器の変更など反映している。現在、便座の変更について要望があり検討中である。また、資格取得の希望には、シフトを調整するなど配慮し、本人の意向を尊重している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り余裕のある勤務形態をとるようにしてはいるが、職員の欠員などで、窮屈な思いをさせてしまっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人と合同で年間研修計画を作成し、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の同業者との勉強会を行ったりし、法人以外のグループホームとの交流を少しずつ進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、面接やホームの見学に来てもらい、ホームの雰囲気を感じてもらいながら本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、面接やホームの見学に来てもらい、ホームの雰囲気を感じてもらいながらご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階からで、本人や家族から状況などを聞きながら、併設のデイサービスの利用などが出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	面会時に、ご家族の方とコミュニケーションを取り、情報を交換している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、外出支援など声掛けし、なるべく参加していただけるようにしている。また、お盆やお正月など家族と一緒に過ごせるように勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くから付き合いがある友人とは、電話連絡やホームに来ていただいて、関係が途切れないよう支援している。墓参りを続けている方は、ご家族が連れて行って下さっている。	家族と外出する前には美容室で髪をセットしたり、2ヶ月に1回の割合で近くの美容室に行くのを楽しみにしている利用者がいる。以前住んでいた近所の方や友人の訪問があったり、家族と墓参り、結婚式、法事に出かけるなどもある。遠方の親戚に電話をかけるなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを把握し、利用者同士の関係がスムーズに行くように支援している。また、利用者間でトラブルがないよう、食事のときの配席など考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設外で家族の方に出会ったときは、声掛けを行って相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や日常での関わりを持つ事で、一人ひとりの思いや暮らし方、希望、意見などで把握に努めている。又、面会時家族の方から意見を聞いている。	職員は利用者がよく口ずさんでいた歌を耳元で歌ったり、声掛けして表情や反応の変化から意向や希望を推測し支援している。困難な場合は、家族に尋ね情報を得ることもある。将棋が好きな利用者には、対戦相手を募り、相手をしてもらうなど本人の意向に沿えるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から聞き取り、生活歴の把握に努めている。又、面会時など家族の方から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌を記入することにより、心身状態、その日の過ごし方など把握するように努めている。又、スタッフ間での申し送りの中から、現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当者を決めて、担当者が中心になりミーティングを行っている。又、実施状況や課題について話し合い、本人、家族の意見を反映した介護計画を作成している。	計画は担当者が中心に他職員や家族に話を聞き作成し説明して同意を得ている。見直しは短期3ヶ月、長期は6ヶ月で急変時や退院後は計画を作り直している。介護日誌に利用者一人ひとりの目標を示し、実施した支援が記載されている。ただし、計画書には本人や家族の希望を記載する欄がなく、支援目標に反映した連動性が見えにくい。	介護計画に本人、家族の希望の記載項目がないため、支援目標との連動性が不明である。本人や家族の希望を可視化することでそれが職員に共有され、日々の介護に活かされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に気づきや水分量、排泄状況などを記入し、職員間で情報を共有している。又、日誌を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に併設のデイサービスを利用されていた方がいたので、希望があれば、デイサービスに遊びに行ける体制作りが出来ている。		

グループホームコスモス1及2(コスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の出席者に地域の民生員さんがおり、入居者の状況などを報告し、協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関の受診を行っており、週に1回母体の診療所から往診を受けている。また、協力歯科医院より、義歯の調整・洗浄をして頂いている。	母体が医療機関であるため、契約時に説明をして主治医を決定している。従来のかかりつけ医継続も可能で家族が同行できない場合は職員が支援している。受診結果は家族と事業所で互いに報告し共有している。母体の医院から週一回往診があり、24時間対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の診療所の看護職員により、週に1回訪問がある。医療に関する相談は日常的に行っており、必要時には受診看護も受け入れるような環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院などに入院時には、情報提供書を作成し、病院との情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族・医師・スタッフと話し合い、家族や本人の希望に応じた対応が出来ている。また、急変時の場合は母体診療所への連絡と取るように手順書も作成しているが、地域関係者とのチーム支援への取り組みはできていない。	現在終末期については利用者、家族の意思を尊重した介護をするという指針が重要事項に盛り込まれているが、概略は示しているものの具体的な方針とは言いえない。また、手順書はあるものの高齢化する利用者について職員の不安が見られる。	事業所として、段階を踏んだ家族との話し合いを想定した重度化や終末期の具体的な方針、同意書の再検討が望まれる。また職員の不安を軽減するために研修等を含めた重度化、看取りに対する支援の体制づくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急救命講習の受講を行っている。 急変時や事故発生時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間で、緊急時の連絡網の整備を行った。年に1回は法人全体で、3ヶ月に1回は事業所で避難訓練を実施。GH単独で夜間想定避難訓練を実施している。	法人全体で消防署立会いのもと1回、事業所で災害想定や時間を変え3ヶ月に1回の自主訓練を行っているが、自然災害については想定していない。また職員連絡網があるが機能するか職員間に不安があり、災害時の備蓄品の検討や地域の協力についても打診に留まっている現状である。	事業所での消防署立会いでの避難訓練を行いユニット毎の避難経路等の指導を受けるとともに、機能する連絡網作成や地域協力の要請が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応については、ミーティング・連絡帳にて常に注意するようにしている。	職員は利用者に対して敬語を基本としている。また、職員間で不適切な言葉やそぐわない言葉にならないよう注意し合っている。トイレ誘導もさりげなく声かけするなど配慮している。個人情報に関する書類は管理室に保管しており、職員から守秘義務の誓約書を取るなど努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人に希望を取り、自己決定して頂いた日常生活を送っており、買い物は希望時にいつでもいけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の時間帯は決まっているが、本人の希望により買い物、入浴、併設デイサービス利用など、その日の希望に応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	援助が必要な人の身だしなみやおしゃれは本人の意見を聞きながら支援している。化粧品を買いに出かけたり、月に2回理髪店の方に来たいただき、希望に応じて散髪としていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はユニットで調理しておらず、外部委託で対応しているが、本人の希望を聞き、好みの物などを提供してもらっている。食器を以前はミラニン樹脂製の物を使用していたが、陶器のものに変え、家庭的な雰囲気ですべて楽しんでもらうようにしている	法人内部の委託業者の調理を利用しており、職員は利用者と共に食卓につきテレビを消して会話をしながら食事を行っている。献立は利用者の嗜好を考慮し、トロミ、キザミ、減塩などにも対応している。時には外食や出前、畑で収穫した野菜を使うこともある。また、おやつを手作りするなどして利用者の食事の楽しみに繋がるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は外部に委託しており、栄養士にてバランスの良い食事を提供していただいている。食事チェック表にて、摂取量が把握できるようにしている。水分量は一人ひとりの状態によるが、目標を1Lとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後口腔ケアを行っている。その方に合わせて、出来ない部分を支援し、うがいの声掛け、義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシート作成し、排泄パターンを把握し、言葉掛けにより排泄を促している。また、トイレの場所が解るよう工夫し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握している。職員間で自立支援の大切さを話し合っており、重度であっても布パンツやパッドの利用者が多く、トイレに座って排泄するよう支援に努めている。建物が宿泊施設だったため居室にトイレがある部屋が多く、判別しやすいように誘導テープ等工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、便秘のある方には、運動や水分補給、バナナなど食物繊維をとっていただくように促し、便秘解消に努め、必要に応じて下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、入居者の半数ずつ毎日実施している。毎日入浴できるので、その日の気分、要望に沿った支援を行っている。	事業所は毎日入浴が対応できるよう努めている。利用者の好みの湯温に合わせたり、要望での同性介助も対応している。車椅子の利用者も2人体制で対応し、浴槽に浸かってもらう支援をしている。拒否の場合は時間をおいての声かけや他の職員が誘うなどして工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣やその時の体調に合わせて休息、入眠を促している。不眠の方には、医師に相談や夕方に散歩を行うなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬の内容把握している。服薬時には、名前、日付、時間を声に出してから服薬して頂くようにして、一人ひとりに合った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった役割を考え、常に負担にならないよう配慮しながら、感謝の言葉を伝えるようにしている。又、外出やデイサービスの利用、運動をすることで、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に沿って外出支援している。週に2回程度の割合で買い物支援している。又、家族の協力でお墓参りや法事の出席など外出支援をしている。	職員は利用者が外出したい時にすぐ対応できるよう心掛けており日常的に買い物や散歩をしている。すぐ対応できない場合は利用者と約束して次の外出支援に繋げている。車に乗って地域の直売店や少し離れた景勝地へドライブすることもある。敷地裏の畑も利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時など本人の能力に応じて支払いをしていただき、現金出納帳に記入していただいている。管理できない方は事務所で預かり、スタッフと一緒に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、要望があるときは取り次ぎや1階にある公衆電話から自由にかけてられるようにしている。手紙のやり取りも自由におこなって頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は日当たりもよく、明るい雰囲気だが、廊下は日当たりが悪く、暗いので日中も電気を使用している。又、食堂に季節感を感じてもらう様に掲示物などで工夫している。	既存の建物ではあるが利用者が安全で使いやすいように工夫している。リビングは日当たりが良く、暖かな雰囲気では利用者は好きな場所で過ごしている。掃除は朝から行い、換気もよく気になる臭気はない。文字が大きな時計や季節を感じる飾りつけは家庭的な雰囲気では居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間は一人ひとり決まった居場所があり、雑談やテレビ観賞など、思い思いに過ごしている。廊下にもソファを設置し、談話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具や家族の写真、位牌などを置いて、居心地よく過ごせる工夫をしている。	宿泊施設であった建物の構造上、掃除がしにくい間取りであるが職員が毎日換気し、清潔に過ごせるよう支援している。好きな俳優や家族写真、衣装ケースなど家族と相談しながら配置し、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり設置や食前の盛り付け、食後の下膳やトイレ掃除などおこなっていただいている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102645		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホームコスモス1及2(コスモス2)		
所在地	長崎県長崎市京泊3丁目10番5号		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にスーパー、郵便局、銀行があり、交通の便もよくいつでも外出支援ができる環境にある。また、母体が診療所の為、いつでも往診が可能。建物の1階にはデイサービスが併設しており、いつでも利用できるような環境整備ができています。ただ、建物の周りに自然が少ないので、外出の機会を増やすことで、自然に触れる機会を作っているようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも確認できるように、目の届く場所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、保育園や小学校との交流、福祉体験の受け入れは積極的に行っているが、日常的に交流しているとは言えない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校などに認知症の人の理解や支援の方法を講義に出向いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回会議を開催し、民生員の方や地域包括の方、ご家族の意見を取り入れ、サービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時、電話や窓口へ出向くなどの機会はあるが、実情やケアサービスの取り組みについて情報を共有し、共に協議していくことまでに至っていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止の内部研修会を行い、その中で身体拘束についても触れ、職員間での啓蒙をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての内部での研修を行っている。		

グループホームコスモス1及2(コスモス2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用するような入居者の方はいないが、権利擁護の制度については職員にアナウンスを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時には、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けているが、意見が入っていることが無く、活用できていない。ご家族には面会時等に意見や要望がないか話せる機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を積極的に受け入れ、職員の意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り余裕のある勤務形態をとるようにしてはいるが、職員の欠員などで、窮屈な思いをさせてしまっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人と合同で年間研修計画を作成し、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の同業者との勉強会を行ったりし、法人以外のグループホームとの交流を少しずつ進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が入居する前には、自宅へ訪問し、顔なじみの関係作りを行い、生活環境の把握を積極的に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めていることを理解し、事業所としてどのような対応が出来るのか、事前に話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居などの相談があった場合は、ご家族などに今の状況の聞き取りを十分に行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、調理や畑仕事など、利用者から学ぶ機会もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、共にご本人を支えていけるような関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族と墓参りに行ったり、スタッフと一緒に馴染みの場所を訪ねている。また、友人がホームに会いに来て頂く事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの居室に行き、共にテレビを観たり談話して楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されて、他のサービスを利用される場合の情報提供は積極的に行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難な場合は、本人の表情、行動を読み取り、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談にて、本人やご家族、関係者などから聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムを把握し、些細な変化を見逃さないよう、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見、要望を取り入れ、介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、利用者の状況変化や状況、家族やご本人の要望に応じて見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに職員の気づきや利用者の状態変化などを記載し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な通院希望などでユニットの職員が対応できない時などは、併設の他の事業所職員が同行したり出来る体制をとり、事業所の都合でご本人の希望が阻害されないようにしている。		

グループホームコスモス1及2(コスモス2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の出席者に地域の民生員さんがおり、入居者の状況などを報告し、協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、受診介助など本人家族の要望に合わせて同行している。母体診療所からの往診も週1回あり、医療連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の診療所に、グループホーム担当の看護師を確保し、情報共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、家族とも情報交換をしながら、回復状況など速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項の説明の中に、看取りについての指針を示しているが、具体的な意思確認など、契約の取り交わしまでは至っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は実施していないが、消防署より講師を派遣してもらい、救急救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時における避難訓練は年に2回部分訓練を行っている。地震・水害の訓練は今のところ行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけがなれ合いにならないように、又、他入居者の方に聞こえないように、トイレの声掛けに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、本人の希望、関心、嗜好など、本人が自分で決められる場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に食事、入浴以外は決められた日課は無く、それぞれが思い思いの時間を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、化粧や身だしなみができるよう働きかけている。また、2ヶ月に一回ほど近隣の美容院に出かける方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託による食事提供のため、自分たちで献立を考えたり、調理するなどの場面は少ないが、下膳や食器洗いなどを手伝ってもらい、食事に関われるように工夫している。又、おやつ作りにも参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部委託にて栄養管理はできており、食事形態などの相談は法人の栄養士の協力を得ている。また、摂取量は適宜記録に残している。本人の食べられそうな物や、状態に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態の観察や本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。		

グループホームコスモス1及2(コスモス2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意の無い利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含むものを提供したり、こまめな水分補給を促したり、家事活動など身体を動かす機会を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回の入浴日を設定している。体調不良で入浴できないときは、ドライシャンプーによる洗髪や清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えられるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は目に付くところに貼られており、1日分を日付と名前を記入して準備している。与薬時には口頭で日付と名前を伝え、確実に複数で確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。又、併設のデイサービスに行き、なじみの人と会えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所前のスーパーや、近隣の直売所などの外出、屋外への散歩を車イスの入居者の方でも、出来る限り、希望に応じられるように支援している。		

グループホームコスモス1及2(コスモス2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお小遣い程度のお金を所持したり、買い物の際は自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人から電話をかけたいと訴えがあるときは、適切に支援している。遠方のご家族には月に一回程度電話を頂くようお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間や廊下に、ソファやイスを設置し、入居者の方やスタッフがいつでも集えるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや、好きな写真を置いたり、畳を設置したりして、本人様の要望に合う居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上、段差が多いが、スロープなどを設置し、入居者が可能な限り自分で移動できるように工夫している。		